

二〇一七年七月二十八日(参加者一五名)

万緑の嶺にゴンドラの見え隠れ
 幾つもの滝壺を經し瀟場かな
 万緑を洗ふ雨脚しるきかな
 滝壺の深淵魔物棲むならむ
 幽谷の岩間を裂きて滝落つる
 岩窪を高御座とす滝不動
 遠雷の聞こゆ茶店に梅雨やどり
 岩襖晒すがごとく滝落つる
 布引の滝落ちてより瀟碧し
 雷神を呼びよせたるか飛滝神
 鼓滝とはいひがたし梅雨の滝
 眼福の現代アート館涼し
 出し抜けの雨に四散す蝉つぶて
 緑雨かな塵ひとつなき石畳
 滝壺の際立つ白と深緑
 一条にはた二条にと滝落つる
 滝壺を見せぬ樹林の深緑

明日香
 明日香
 明日香
 明日香
 ぼんこ
 ぼんこ
 ぼんこ
 ぼんこ
 ぼんこ
 ぼんこ
 うつぎ
 うつぎ
 うつぎ
 うつぎ
 せいじ
 せいじ
 せいじ
 たか子
 たか子
 たか子

煤こけて蠟涙しるき滝不動
 大岩の奈落に響く鼓滝
 一瀑布樹間隠れに轟きぬ
 滝道の一步に涼し沢の音
 滝茶屋の窓に古びし登山靴
 水晶の杯翳すごと大噴水
 川跨ぐホームに佇てば風涼し
 夏つばめグラウンドゴルフ囃すかに
 安寧の風通ひくる滝不動
 松籟の涼しといゆく川堤
 大滝のマイナスイオン深呼吸
 一陣の滝風木々を揺らしけり
 乗換のホームの長し駅薄暑

わかば
 わかば
 わかば
 小袖
 小袖
 菜々
 菜々
 菜々
 こすもす
 なおこ
 はく子
 宏虎
 有香
 よう子

定例会の選

二〇一七年七月二十八日(参加者一五名)